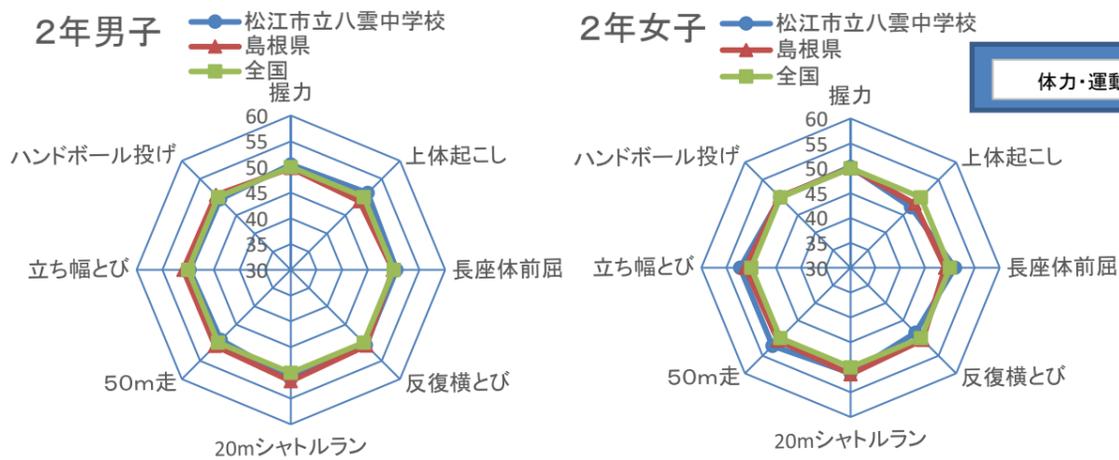


(1) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)

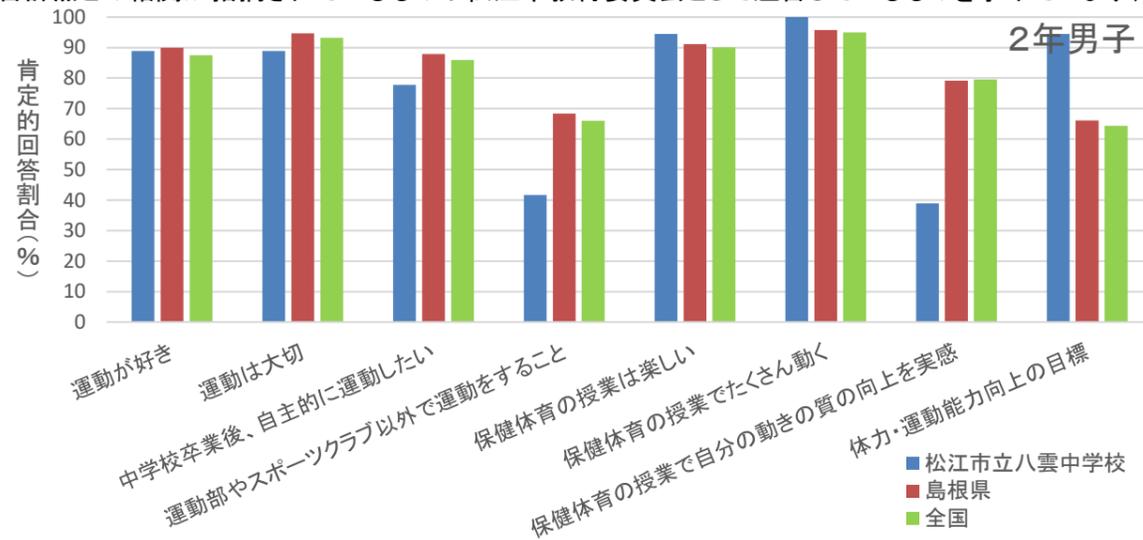
(2) 調査結果の分析



体力・運動能力面

意識面

全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査<意識調査>の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



① 体力・運動能力面

強み

○男子では「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「20mシャトルラン」が全国平均を上回っている。特に「上体起こし」や「20mシャトルラン」が全国平均を上回っており「筋持久力」「全身持久力」が強み。
○女子では「握力」「長座体前屈」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅跳び」が全国平均を上回っている。特に「立ち幅跳び」「50m走」が全国平均を上回っており「瞬発力」「走力」が強み。

課題

●男子では「ハンドボール投げ」「50m走」が全国平均を下回り、「投力」「スピード」が課題。
●女子では「上体起こし」「反復横跳び」において全国平均を下回り、特に「筋持久力」「敏捷性」が課題。

次年度の対策

・継続的なコアトレーニングやコーディネーショントレーニングなどの身体操作の活動を行う。
・連続した動作の運動を行う。

② 意識面

強み

○男子では「保健体育の授業は楽しい」「保健体育の授業でたくさん動く」「体力・運動能力向上の目標」の割合が全国平均よりも高い。
○女子では「保健体育の授業は楽しい」「保健体育の授業でたくさん動く」「体力・運動能力向上の目標」の割合が全国平均よりも高い。

課題

●男子では「中学卒業後、自主的に運動したい」「運動部やスポーツクラブ以外で運動をすること」「保健体育の授業で自分の動きの質の向上を実感」の割合が全国平均より大幅に低い。
●女子では「運動が好き」「中学卒業後、自主的に運動したい」「運動部活動スポーツクラブ以外で運動をすること」「保健体育の授業で自分の動きの質の向上を実感」の割合が全国平均より大幅に低い。

次年度の対策

・意識調査において男女とも課題に示した通り全国平均を大幅に下回るものがあった。授業力向上を次年度は図り、運動の質の向上を実感することによって運動の必要性、体力・運動能力向上目標の割合の向上を図っていく。

(3) 令和4年度の方針【学校全体での取組】

① 体力向上や体育授業に関する校内研修会等の計画について

・校内で研究部が主導し研究授業を行う。

② 体育科授業の工夫・改善について

・継続的な取り組みとして、授業開始時のコアトレーニングやコーディネーショントレーニングの実施。
・ICT活用による授業の質の向上。

③ 体育授業以外の活動の工夫について

・昼休みの軽スポーツとしてバドミントン推奨し、用具の計画的な購入。
・委員会が主体となって行う、縄跳び大会等の活動。

④ 家庭・地域、近隣の学校・園等との連携、情報発信について

・義務教育9年間(発達特性と臨界期)を見据えた取組を行う。〔小中連携〕